

第 89 号  
平成 28 年  
5 月

HPに 創刊号から  
連載中

## もう一つの道

情報は、うのみにせず、注意  
深く徐々に試してください。

山田整骨院  
熊本市中央区出水 4-25-1  
096-364-7611

<http://yamadasu.com/>

<http://www/jiko-kumamoto.net/> 熊本交通事故, 山田整骨院 検索

## 失明が回復

渡辺正 医学博士 月刊西医学 昭和 39 年 3 月号

### そこひの失明も治る

Yさんは川崎市に住む二十七歳の奥さんである。昨年の九月、お産をした際に出血があり、専門医の手当てを受けていた。この間クロマイやテラマイなどの抗生物質を大量に使用していたという。十二月に入るとともに、左頭部のはげしい偏疼痛を覚えるようになった。同時に左眼の視力が零となった。眼科の専門医の診察をうけたところ、左視神経炎である。治療法としてはプレドニンを使用した。全身に蕁麻疹が出るばかりで、視力はなんら回復しない。視力回復の見込みはないといわれたので、わたくしの方にみえた。元来視神経の炎症や萎縮があると、視力が低下することはよく知られている。視神経の萎縮は古い梅毒を持っている際にもよくあらわれる。その他鼻の病気でも、ビタミンB<sub>1</sub>の欠乏の時でも、また脳の病気の時でも、あるいは煙草やお酒を長年にわたってのみすぎた時でも、視神経の炎症を起すが、結局ビタミンCの欠乏がその根本的な原因である。Yさんは梅毒もないが、ビタミンCの欠乏が著名であった。Yさんは下肢が弱く、ことに左足のモントン氏病が認められた。したがって、消化器官の蠕動力が弱く、平生から便秘症に悩み、大量の宿便がある。平生甘いものを好むのでグローミューが消失しやすい。便秘症のためにビタミンCの欠乏がますます強度となる。また慢性の便秘症のために寒がりやさんで厚着をしている。したがって皮膚の機能が悪くなって皮膚呼吸が充分に行われない。ビタミンCの欠乏がますます強度となる。下肢の弱化、皮膚機能の低下、ビタミンCの欠乏と相俟って視神経炎を発し、ついに失明するに至ったわけである。Yさんは生後三カ月の赤ちゃんを同伴して入院した。一週間の寒天断食療法により、宿便排除を行い、裸療法、温冷浴、三号型健康機の活用などを行う。一ヵ月半の入院加療により、失明していた左眼の視力が回復するに至った。

天にも昇る喜びで退院した。

一般に、黒内障（くろそこひ）と呼ばれるものは、眼底の網膜や、その下にある脈絡膜、それから視神経の犯されたものを総称する。病気の種類によって、犯される場合やようすもかなりいろいろあるが、一般に治りにくく、重い病気であるということになっている。

眼底の網膜の出血、中心性網膜脈絡膜炎、網膜剥離症、交感性眼炎、網膜色素変性、それから視神経の炎症と萎縮などがある。

**黒内障の体貌観測上の特徴としては、**

- ① 鼻の下外方が、ひげのないのに黒ずみ、進行するに従って悪い方の眼の上方も黒ずむ。
- ② 眼球は一カ所を見つめて、少しも動かない。

**黒内障の処置法としては**

- ① 生水、柿茶、スイマグ水などを服用して便通をよくすること。
- ② 三号型その他健康機の活用、または自力によって、六大法則の実行。特に金魚、毛管に主力をおいて、全身の血液循環を良好にする。
- ③ 断食療法または寒天断食を一週間ないし二週間行い、その後、純生食療法を行う。宿便排除のため。
- ④ 裸療法、温冷浴により皮膚機能の回復をはかる。
- ⑤ 美容機、懸垂機が卓効あり。下肢柔軟法もすこぶる効果がある。黒内障になるような人はすべて下肢が弱くて硬化しているからである。

黒内障とならんで白内障、緑内障についてもふれておくことが大切であろう。元来、「そこひ」というのは、表からみたのではなにも病気があるとは思えないのだが、実際には視力が悪い場合の総称であり、眼鏡をかけると視力が出るというのは「そこひ」とはいわない。

緑内障（あおそこひ）は普通より眼のかたさがかたくなっている。つまり眼圧が上昇している。（これは眼の中で水分の新陳代謝が完全に行われなためである。）眼圧は、正常の場合には、眼圧計ではかって十五～二十五ミリ水銀柱であるが、これが三十～三十五ミリ水銀柱以上になると「あおそこひ」ではないかということになる。眼圧と血圧とは、普通関係ないもので、血圧が高いからといって、眼圧が高くなるものでもない。

#### 緑内障の体貌観測上の特徴をのべると

- ① 眼球を指で压えると堅い。
- ② 糖尿病からきたものは最高血圧が低い。
- ③ 足関節の後側アキレス腱の部分に静脈炎を起している（下肢の故障）。
- ④ 下肢を曲げないで上体を下に曲げた場合、両手は平面につく、などの諸点である。

一方白内障（しろそこひ）は水晶体の混濁したものであり、白内障の特徴点としては

- ① 水晶体の混濁である（尿酸がたまるため）。
- ② 上体を曲げて、両手が平面につかない。
- ③ 下肢が弱くて硬くなる。膝関節に静脈炎がある（下肢の故障）。
- ④ デパートで三階まで階段を平気で昇ることができない。

緑内障も白内障も、ともに下肢の弱体化、皮膚機能の低下、ビタミンCの欠乏が原因であるから、処置としては、

- ① 柿茶、生水の飲用、スイマグの服用により便通をつけ、ビタミンCを補給すること。
- ② 生野菜食、断食療法により宿便の排除を行うこと。
- ③ 六大法則、特に毛管運動に重点をおく。また足首の上下運動と下肢柔軟法。背腹運動を朝夕実行することは卓効がある。
- ④ 裸で平牀上に寝むこと。裸療法、温冷浴の実行により皮膚機能を旺盛にすること。
- ⑤ 食物としては、タマネギは禁物であり、その他、豆類、豆腐類は禁物（豆類中のガラクトーゼが悪い）。生ネギ類は性欲が旺盛になる。それが眼の充血を起して悪化させる。
- ⑥ 過食と房事を慎むことが大切。

その他緑内障の場合には、眼の冷温湿布や眼の各種の操作、また胸椎十番を抑えて頸椎七番の叩打もよろしい。

要するに、緑内障も白内障も、多少食物の影響もあるが、主要の原因はやっぱり皮膚と下肢とである。皮膚の機能を完全にして、下肢を柔軟にし、眼の水分栄養分の新陳代謝を旺盛にすることが一番に大切である。

### あ と が き

筆者の渡辺正先生には大変お世話になりました。7回断られてもお願いして、昭和62年から3年間渡辺医院で研修勤務させて頂きました。今、山田整骨院があるのは渡辺先生のおかげです。当院では視力回復センターを併設していますが、下肢と皮膚とビタミンCの重要性に改めて気づきました。弱視の子が西式健康法の実践で正常視力になった例を知っていますが、こういうことだったのでですね。眼科でダメと言われても、このような方法があると知れば、良くなる人が多いと思います。ビタミンCはコラーゲンの生成、免疫力の向上、ストレスに対する抵抗、新陳代謝、血液、血管の正常化等 多様な働きをしていますが、その分たくさん消費されます。便秘もストレスになります。三号型健康機というのは当院の運動療法の機械です。皮膚も呼吸、排泄等働いていますので裸療法、温冷浴が有効ということ。当院では下肢の故障を治す方法として毛管運動、下肢柔軟法、足首の上下運動、扇形運動を行い、下肢の強化法として、天突き運動、ゴムチューブ運動を指導しています。